

課題研究以外の研究開発 1

教育課程の編成（外国語）

1 目的と期待される効果

(1) 目的

普通科の教育課程において、外国語（英語）に関する各科目の内容をグローバル・リーダー育成の目的で編成し直した学校設定教科「グローバルラーニング（GL）」の中に学校設定科目として設定することで、グローバルな社会課題について理解を深めるとともに、自己の考えを深化し、英語によるコミュニケーション能力を身に付ける。

(2) 期待される効果

英語の語彙を増やし、英語に対する関心と意欲を高めるとともに、探究心、表現力、コミュニケーション能力等が身に付くことが期待できる。

2 内容

次の①・②を学校設定科目として設定する。

- ① GLコミュニケーション英語（コミュニケーション英語Ⅰの代替）
- ② GL英語表現

3 実施方法

上記学校設定科目については、代替する科目の内容をグローバルな視点を重視して見直し、積極的にICT機器を活用して、アクティブ・ラーニングを取り入れて実施する。

「GLコミュニケーション英語」及び「GL英語表現」を普通科1～3年次において分割履修する。

4 検証評価方法

- (1) 普通科生徒及び保護者に対して「グローバル・リーダー」に関するアンケート調査を行う。1年後、2年後に同様のアンケート調査を実施し変容について分析する。
- (2) 実用英語技能検定やTOEFL, TOEICの受験及び目標レベル達成状況も検証する。調査結果はSGH運営指導協議会で検証し評価する。
- (3) 教員にもアンケート調査を4月及び年度末に行い意識の変容について分析する。
- (4) 大学進学実績をこれまでのものと比較検討し、検証評価する。

5 実施内容

GLコミュニケーション英語

目標

グローバル化に対応して、英語を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養い、将来のグローバル・リーダーとして活躍できる能力と資質を養う。

<内容の取扱い>

- ① 必履修科目「コミュニケーション英語Ⅰ」を代替する科目として実施する。
- ② 指導に当たっては、「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」の内容等を参照し、内容を発展・拡充させ取り扱う。
- ③ グローバル・リーダーを育成する観点から、4つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的に指導する。

(1) 授業の概要

「GLコミュニケーション英語」の授業は、原則としてオールイングリッシュで展開している。他の科目も含めて、英語の授業における生徒の発話が半分以上である割合は90%である。また、今年度から、ALTが常駐し、授業におけるTTが定期的に行えるようになり、課題となっている生徒の英語の話す・聞く力の向上に向けた取組ができています。

授業の在り方は、昨年度同様、1学年生徒対象にプレゼンテーションの授業を行い、本校に来校する海外（台湾・マレーシア）の高校生に対して、英語で日本の文化についてプレゼンテーションを行った。

また、2学年生徒については、グローバルな課題をテーマとした題材を取り上げ、ペアワークやグループワーク、ALTを交えてのディスカッション、ディベート等を実施し、英語によるコミュニケーションの向上を図った。

(2) 授業展開例（学習指導案）

GL Communication English Lesson Plan

1. Date: Friday, November 24th, 6th period (14:15 -15:05)
2. Class: 2B (23 boys and 18 girls)
3. Description of students:
The students are in the General Course of Study. They participate in the class actively.
4. Materials: Global Issues Towards Peace (Nan'un-do) Unit 8, Worksheets
*The book is used as a supplementary textbook in GL Communication English II.
5. Major goals of this lesson:
 - (1) Students will try to explain and support their opinions well enough for other people to understand them.
 - (2) Students will communicate information and their ideas logically.
 - (3) Students will understand the pros and cons and their reasonings of short statements.
 - (4) Students will understand the current situations of nuclear weapons and nuclear powerplants.
6. Objectives of this period:
 - (1) Students will try to explain and support their opinions well enough for other people to

understand them.

(2) Students will express their ideas logically.

(3) Students will understand the opinion and their reasonings of spoken statements and take notes.

(4) Students will understand the vocabulary necessary for debating on nuclear power.

7. Evaluation:

Interest, willingness, and positive attitude toward communicating in English	Ability to express themselves in English	Ability to understand English	Knowledge and understanding of language and culture
Students actively engage in pair and group work.	Students can express their ideas logically using appropriate signposting.	Students can take notes and respond to the speaker.	Students can understand the vocabulary necessary for debating on nuclear power.

8. Time Allotment:

1st period: Preview and DVD Activities (Worksheet, p.57-p.58)

2nd period: DVD Activities and Reading Activities (p.58-p.61 + Worksheet)

3rd period: Further Activities (Communication Activities) (p.65 + Worksheet)

4th • 5th period: Further Activities (Mini Debate) (Worksheet)

9. Procedure:

Activities (time)	Teacher's Role	Students' Role	Evaluation
Introduction (12 min.)	<ol style="list-style-type: none"> Greet students (Ss). Present the objectives of today's lesson. Have Ss practice the key vocab. Have Ss one-on-one debates. (AREA ⇒ repeat and attack) 	<ol style="list-style-type: none"> Respond to the teacher (T). Listen to T. Practice the key vocab. Review some key expressions and engage in one-on-one debate 	<ol style="list-style-type: none"> ①②③ Observation
Debate Preparation (12 min.)	<ol style="list-style-type: none"> Explain how their arguments should be supported with stats. Have Ss brainstorm pros & cons and attack ideas in groups. 	<ol style="list-style-type: none"> Listen to T and practice Share each other's ideas and prepare arguments as group.	<ol style="list-style-type: none"> ① Observation

Mini-debate & Reflection (25 min.)	1. Have Ss debate twice. 2. Have Ss think about their performance and where they should work on for the next debates.	1. Engage in 2 mini-debates. 2. Think about their performance and prepare for the next debates.	① Observation ②③④ Will be tested on a written test later
Closing (1 min.)	1. Wrap up the lesson. 2. Give Ss assignment.	1. Listen to the teacher. 2. Listen to the teacher.	

6 結果と課題

第1学年の代表クラス2クラスの生徒は、それぞれ台湾・マレーシアから来校した高校生に日本の文化についてプレゼンテーションを行ったが、他国の高校生は理解することができた。その後の交流においても英語でコミュニケーションを取ることができた。生徒のアンケートから、「英語で自分の発信したいことをプレゼンテーションする自信がある。」について、授業前の5月には肯定的回答が36.6%であったが授業後の2月には57.8%に上昇した。

第2学年生徒では同アンケートにおいて肯定的回答が43.7%であったが授業後の2月には53.2%に上昇した。授業改善により、英語で話したり聞いたりすることに慣れたことと、英語で説明し相手に伝わったことが自信につながったと考えられる。

また、9月と11月にGLコミュニケーション英語、GL英語表現の授業を県内高校の英語科教員及び近隣の中学校の英語科教員に公開し、研究協議会を行った。授業の評価は概ね良好であったが、英語の指導に係る中高の課題が取り上げられた。

今後は、自信の持てなかった生徒がまだ多くいることが課題であるので、より効果の上がる指導方法を検討するとともに、英語の指導に係る中高接続の在り方について検討する必要がある。

課題研究以外の研究開発2

英語力、英語を用いてのコミュニケーション能力の育成

1 目的と期待される効果

(1) 目的

実用英語技能検定等の取得や海外の人との交流を通して英語力及び英語を用いてのコミュニケーション能力を身に付ける。

(2) 期待される効果

国際社会で活躍し、グローバル社会で通用するレベルの英語力が身に付くことが期待できる。

2 内容

(1) 実用英語技能検定（英検）や、TOEFL、TOEIC等の英語活用能力テストへの対策講座を展開する。英検2級は卒業までに全員、英検準1級は50%の取得をめざす。

(2) ネイティブの講師や課題研究の指導等で来校する留学生とのコミュニケーションの機会を増やす。

3 実施方法

(1) 英検の対策として課業期間の放課後や長期休業を利用した課外講座を開講する。TOEFLやTOEICについても講座を開講し、受験を促す。各自に取得目標と計画を立てさせる。

(2) 個別の会話だけでなく、グループミーティングやディスカッションを行う。海外での課題研究の発表を視野に、ミニプレゼンやインタビュー形式のものを実施する。

4 検証評価方法

(1) 検定の結果や目標の達成レベルを検証の指標とするとともに、海外での研究発表時の英語力に対する評価及び自己評価も分析する。

(2) 講師・留学生などによる評価や、アドバイスから改善を図る。

5 実施内容

(1) 英検対策課外講座

区分	内容
課外講座 (全4回)	定期考査，行事，部活動の大会等に支障のない金曜日の放課後に実施した。英検と同じ時間で問題を解かせ，解説した。リスニング・ライティングを扱った。
ライティング添削 講座（随時）	ライティングの課題を課し，添削を行った。個別指導の形式で随時行えるようにした。
面接講座	一次を合格した生徒には，二次試験直前の一週間のうち放課後等を利用し，面接講座を実施した。個々に時間を設定し，英語科の教員で指導にあたった。

平成29年度英語検定2級以上取得者数

項目	第1学年		第2学年		第3学年	
	2級	準1級	2級	準1級	2級	準1級
2級以上取得者数	64	1	108	5	67	2
取得者／在籍	20.0%		35.1%		21.6%	

(2) 英語を用いたコミュニケーションの機会

ア 台中市立台中女子高級中学（台湾）との交流

(ア) 日 時 平成29年6月5日（月）午前11時～午後4時30分

(イ) 場 所 地域交流施設

(ウ) 参加者 台中市立台中女子高級中学32名, 同校教員2名, 本校1年G組(40名), 2年G組(39名)

(エ) 内 容 学校紹介, 展示室等見学, 1年G組との昼食交流及び授業（GLコミュニケーション英語）, 2年G組と課題研究に係るディスカッション及び交流



イ 佐倉在住の外国人との交流

(ア) 日 時 平成29年10月21日（土）午前9時30分～正午

(イ) 場 所 地域交流施設

(ウ) 参加者 本校生徒希望者20名 外国人10名（佐倉国際交流基金 日本語サロン 日本語学習者）

(エ) 内 容 展示室, 記念館見学, 琴演奏体験, グループトーク（自国紹介等）, 交流

ウ SMK SEKSYEN 18校（マレーシア）との交流

(ア) 日 時 平成29年12月18日（月）午前11時～午後4時30分

(イ) 場 所 地域交流施設

(ウ) 参加者 SMK SEKSYEN 18校30名, 同校教員3名, 本校1年F組(41名)

(エ) 内 容 学校紹介, 展示室等見学, 授業（GLコミュニケーション英語）, 交流

6 成果と課題

(1) 英検対策課外講座

今年度の1年生から, 英検2級を必ず1回は受検することとした。英検対策課外講座については, 面接指導を重視し, ALTも指導に加わった。平成28年度は, 英検2級以上の取得者総数は, 107名であったが, 今年度は, 247名となった。2級取得者数が確実に増えているので今後も対策講座を充実させる。課題は対策講座の実施時期や時間等の調整である。

(2) 英語を用いたコミュニケーションの機会

台中市立台中女子高級中学の生徒, 佐倉国際交流基金日本語サロン・日本語講座日本語学習者, SMK SEKSYEN 18校の生徒との交流を行った。GLアクティブにおいても千葉大学の留学生との交流をしている。成果については, 生徒が英語を活用し, 英語力を主体的に確認できる場であることから有効であると判断している。

課題研究以外の研究開発 3

地域や同窓会との連携

1 目的と期待される効果

(1) 目的

地域や同窓会（鹿山会）の組織の中で、グローバルな社会課題の解決に向け活動している団体や支部との繋がりを活かし、グローバル社会の現状や課題について講義や講演を受けることで、グローバルな社会課題について理解するとともに課題を実感し現実的に捉える。

(2) 期待される効果

多文化共生社会を構築できる人材としての基礎を身に付けることが期待できる。

2 内容

(1) 佐倉日蘭協会の協力を得てオランダから日本にきている留学生と交流する機会や、本校の同窓会のN A Aグループ鹿山会（成田空港関連会社に係る同窓会支部）の協力を得て国際線の外国人機長やC A等と交流する機会を設け、現在のオランダをはじめとしたヨーロッパの経済や国際情勢等について講義や講話を受ける。

(2) 同窓生のなかでも、まだ若手でありながら、地元佐倉の意識が強く、各分野（建築、法曹、T V関係等）の第一線で活躍する、国際経験の豊富な方々からも講話を受け、身近に世界の情報・動向を把握する。

3 実施方法

オランダ派遣やイギリス、ドイツ、シンガポール、オーストラリア研修の実施前に、講演者から世界各国の情勢についてレクチャーを受ける。

4 検証評価方法

研修に参加した生徒やその保護者に対して、記名式4択式アンケートを実施し、その結果と講演者からの評価をもとに検証する。

5 実施内容

(1) 同窓会との連携

ア『ドイツ派遣に向けて』（講演）

(ア) 日 時 平成30年1月16日（火）放課後

(イ) 目 標 デュッセルドルフ等においてビジネス経験を豊富に持つ同窓生の講話から具体的な情報を得ることにより、ドイツに関する知識を深める。

(ウ) 対 象 ドイツ研修参加者10名

(オ) 講 師 寒郡 茂樹氏

(カ) テーマ 佐倉高校生デュッセルドルフ市訪問に向けて

(キ) 内 容 ビジネスでドイツ各地、特にデュッセルドルフ市に度々訪問し造詣の深い寒郡氏が感じているドイツ人気質や文化、街の様子、千葉県とデュッセルドルフ市のつながりなど、様々なお話を伺うことができた。グローバル人材と

して必要とされるのは、語学力もちろんであが、様々なことにチャレンジし経験を積んで実務能力を備えていくこと、異文化への理解とともに、自国の文化を深く理解し発信できることが大事だというお話もいただいた。



イ 「鹿山夢講座ようこそ先輩」

- (ア) 日 時 平成29年9月12日(火) 6・7限
 - (イ) 場 所 本校理科棟, 普通教室及び地域交流施設
 - (ウ) 対 象 1学年生徒
- ※ 詳細については、「研究開発1」に記載

(2) 地域との連携

ア 概要

第2学年生徒「戦争について語り継いでいくためにはどうすればよいか? ~自分たちも含めた語り部の育成~」を研究テーマとしたグループが、研究の一環として平和学習に係る授業を地域の小学校で実施した。また、「伝統工芸を広めよう ~アイデンティティを失わないために~」をテーマとしたグループが、研究の一環として伝統学習に係る授業を行った。

イ 連携校

- (ア) 平和学習
佐倉市立間野台小学校(1時間)、佐倉市立佐倉小学校(3時間)
- (イ) 伝統学習
佐倉市立内郷小学校(1時間)

6 成果と課題

グローバル社会の中でビジネスに携わっている経験を基に説明していただいた今回の講座により、生徒は、異文化を理解すること、グローバル社会の課題、グローバル社会での自己の在り方などについて考えを深めていた。知識として捉えていたことが、現実として捉え直すことができたようである。同窓会との連携については、詳細には海外研修に参加する生徒に対して成田空港に勤務している方(NAAグループ鹿山会)から講話を行っていただいている。

地域との連携については、佐倉市内の小学校で生徒が授業を行うこととした。生徒は授業方法等を研究して行ったが、実施後に、小学生の理解が高まっていることがわかり、グローバルな課題の解決には地域の教育が重要であることを改めて認識していた。課題研究を進めつつ体験を伴う活動であり、「課題を実感し現実的に捉える」一つの方法ではないかと捉えている。